

式辞（広島キャンパス：2011年）

宮城・岩手など東北の人々は、蔵王の山並みを仰ぎ見て生きてこられました。その敬度な気持ちは、斉藤茂吉が、

陸奥（みちのく）をふたわけざまに聳えたまう蔵王の山の雲の中に立つ

と、蔵王を「聳え立つ山」ではなく「聳えたまう山」と歌ったことでよくわかります。

その蔵王が千年も二千年も見守ってきたふもとの村や町を、大地震が襲い、家々が津波に飲み込まれ、多くの方が災害を受けました。悲しみに耐えられません。

さきほど、卒業式を開式するにあたり、皆様とご一緒に、犠牲者の方々のご冥福を祈るとともに被災者と被災地の一刻も早い復旧、復興を願って黙祷を捧げさせていただきました。その思いを胸に刻み込んだ上で、本日の卒業式を進めさせていただきます。

卒業生・修了生の皆様、おめでとうございます。ご家族と関係者の皆様方、お祝い申し上げます。皆様方が大事にご養育なされたご子息ご息女が大きく成長され、本日卒業式を迎えています。本当におめでとうございます。

ご来賓の方々におかれましては、ご多忙のなか、本学の式典にわざわざご光臨賜り感謝いたしております。そして、この場をお借りしまして、本学関係者とともに、いつも変わらぬご支援に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、私たちが生きている世界は、もともと、不確実で変化の大きい世界です。政治・経済・社会も大きく変動します。戦争や動乱もしばしば起こりましたし、また起こっています。それに自然災害も少なくありません。その中で、人々は、何度も、大きな苦しみを経験してきましたが、近代においては、人文科学や社会科学を含めた科学と技術に導かれて、政治・経済・社会・心理の総合的システムを改善していくことにより、人々の生活を豊かで健康で幸せなものに導いていこうとしてきました。その中であって、大学は、知の拠点として、学問の発達と、それを導く理論を科学的方法にたって築き、社会を発展させる技術を開発する役割を担おうとしてきました。

この世界の大学の伝統にたって、本学においては、具体的には、人間文化学部、経営情報学部、生命環境学部、そして保健福祉学部の4学部で、異文化を理解し、平和で、美しい自然環境を維持・保全し、豊かな経済と豊かな文化の発展を図り、健康な生活を実現していこうとしており、そのために重要な、a)学問研究と、b)教育、そして、c)地域貢献の推進を、基本にしています。そして、本学4学部は、これらの役割を果たせるようにきちんと構成されています。

*****A

ですから、本日、ご卒業の皆さま方は、本学においてあれ他の教育機関であれ、他の専門領域を修めた多くの人々と広く共同し、皆さまの専門的知識と実践的技術技能を生かして、異文化理解が深く、美しい自然が保持され、文化的にも経済的にも豊かな、人々の幸せな社会を築きあげ発展させていくことに貢献することを期待されているのです。しかも、本学は、その濫觴に遡りますと90年を超える誇り高い伝統をもつ高等教育機関ですから、その卒業生としては、受け身ではなく、皆さまが主体的に指導的に役割を果たしていくことが強く期待されているのです。

*****B

これは難しいことですが、皆さまにはできるのです。なぜなら、近年日本の大学では学部レベルでは卒業論文を課さない大学が多くなっていますが、そのなかにあって、本学では、大学院生はもちろんですが、卒業論文が全学全学生に必須であり、皆さまは全員卒業論文を書いて卒業を迎えておられるからです。

卒業論文の中核は、社会や学問上の課題を創造的に解決することです。そのため、まず課題の発見・設定をし、その解決のため、広く文献渉猟をし、先人の考え方を踏まえ、仮説を設定し、論証あるいは実証を行い、そして、結論を得て、課題を解決するか、解決の手がかりを得ます。つまり、課題の発見と課題の解決が卒論研究の核心です。およそユニバーシティと呼ばれる世界の大学は、ユニバーシティとして、課題の発見と解決について、間違いの少ない正当なやり方、すなわちアカデミックな方法を長年にわたって蓄積してきており、本学の教員はそのアカデミックな方法を皆さまに伝えています。

したがって、本学をご卒業の皆さまは、自分勝手な思いつきによるのではなく、先人の英知と世界最先端の知を誤りなく生かすアカデミックな方法による課題解決を、卒論研究によってきちんと経験しているのです。

しかも、卒論報告会で他の学生の課題解決の例をいくつも聞きますから、自分の課題解決体験は1つでも、自らの実体験を物差しにし、他の学生が取り組んだ多彩な場面でのアカデミックな課題解決法を広く知って卒業するのです。これは応用範囲を広げますので大変重要です。

*****C

今回の大地震でも、つい最近のリーマンショックでも、自然も人間社会も、大変な厳しくて辛く、解決の困難な大問題を私たちに突きつけてきます。しかし、それを解決する責任を担うべきなのは大学で高等教育を受けた皆さまです。課題の発見・設定とその解決を、卒業論文研究で、皆さまは経験し、多様な課題の設定と様々な解決の仕方を、卒論発表会で聞いていますので、皆さまは課題解決に貢献できる力をつけているはずで

さて、このたびの大地震・大津波で、東北地方は、大きな被害をうけています。詩人の言葉を借りますと、「街々はがらがらと崩れていって / とんでもないところから / 青空¹⁾な

んかが見えたり」しており、いま、人々は「苦しみの日々／哀しみの日々」を送っておられます。そして、けがをしたり、健康を損なったりしておられる方も多いと思います。

大地震で被害をお受けになられた方の心が落ち着くには、いましばらくの時間がかかるでしょうが、私たちは、大学としてできることは最大限の協力し、多くの方が立ち直り、蔵王の山々が見守ってきた村が、そして街が復興していくことを、そして、そのための人々の連帯を、願いたいと思います。

私たちには、困難に打ち勝って立ち直る力強い力があるのです。

茨木のり子の詩の朗読で、今日ご卒業の皆さまの門出を祝うとともに、被害をうけられた地域の人々ときずなを自覚し、復興を祈念して、卒業の式辞とします。

どこかに美しい村はないか
一日の仕事の終わりには一杯の黒麦酒
鍬を立てかけ 籠を置き
男も女も大きなジョッキをかたむける

どこかに美しい街はないか
食べられる実をつけた街路樹が
どこまでも続き すみれいろした夕暮は
若者のやさしいさざめきで満ち満ちる

どこかに美しい人と人との力はないか
同じ時代をともに生きる
したしさとおかしさ²⁾とそうして怒りが
鋭い力となって たちあられる

「六月」より

平成23年3月23日

県立広島大学 学長 赤岡 功

注

- 1) 茨木のり子「わたしが一番きれいだったとき」から引用しているが、ここの「青空」を式辞では「青い海」に変えてお話した。TVの報道画面では、曇りが多く、青空は見えないので、青空が見える時がくるまでは聞く方に違和感があると思いましたが、この時にかぎりお許しいただきたいと考えます。
- 2) 「おかしさ」が、普通の場合は、大変いいのですが、まだ、哀しさが生々しく、「おもしろさ」と近い意味になってはと思い、当日のこの詩の暗唱では、「哀しさ」にしま

した。寛恕いただきたく存じます。

庄原キャンパス式辞（3月22日）

広島キャンパスの式辞とほぼ同文ですが、下記の部分は各キャンパスむけに異なる文章になっている。

庄原キャンパスでは

*****A

から（広島キャンパス式辞参照）

*****B

を以下のようにお話した。

そのとき、皆さまは自然科学系の科学技術を専門としていますから、人類社会と自然環境との調和ある共存にむけての貢献を期待されています。庄原キャンパスでは、文部科学省が優れた教育的取り組みを選定し予算をつける教育的良い取り組みすなわちグッドプラクティス、略して教育 GP に、フィールド科学の教育で応募し、難関を突破して選定されています。それをうけて、今年4月にはこのキャンパスにフィールド科学教育研究センターをおくことになっており、庄原キャンパスの教職員学生がこれまで進めてきた、人類社会と自然社会の調和の下での地域の豊かで幸せな社会を作り上げることに資する教育研究を、さらに発展させることになっています。このとき、人類社会と自然環境との調和とは、動植物だけではなく、海も山も川も含みます。従って、人類が自分たちの都合で思うままに川や海や山を改造せず、人々がどこに住み、どこに工場をそして原子力発電所をつくるかにあたり、自然の力について、謙虚に考え、長期の調和ができるようにすべきなのです。しかし、人間は、そうしてきたつもりでも、自然の力はなお大きく、予想をはるかに超える力による災害に人々は苦しんできました。今回の災害につきましては、災害をうけられた方々への暖かい思いをしっかりと胸にし、そして被害の拡大の防止、復旧・復興へ、私たちが最大限の協力をしつつ、さらに地球社会の調和ある共存について研究と教育を進める覚悟をしなければなりません。

本学の基本理念は、「地域に根ざした県民に信頼される大学」ですが、この理念は、地域社会の調和ある共存をしっかりと踏まえることによって、ぶれることなく実現できます。皆さまは、フィールド科学の教育 GP でしっかりとこの精神を身につけておられますから、この精神にたって、人類社会と自然との調和にむけての貢献をしていただきたく思います。

三原キャンパス式辞（3月17日）

三原キャンパスでは

*****A

から（広島キャンパス式辞参照）

*****C

を以下のようにお話した。

本日、ご卒業の皆さま方は、医療職や福祉関係を専門としておられますので、とりわけ、
の人々の生活を豊かで健康で幸せなものにするために、教養とともに、専門的知識と実践的
技能を磨いてこられました。しかも、三原では、ヘルス・サポーター・マインドを高くすることが重要
だとして、文部科学省が選定して優れた教育プログラムには予算をつける「教育的よい取
組み」すなわち教育グッド・プラクティス、略して教育 GP に応募し、難関を突破して採
択されております。この教育 GP のプログラムの精神には、三原の学生諸氏は十分に薫染して
いまして、昨年の三原キャンパスの大学祭のテーマは、「みはら ~ みんなの ハッピー
ライフを~」でした。そこで、私は、大学祭のプログラムへの挨拶で、詩人、立原道造『優
しき歌』より、次の一節を引用して、三原に学ぶ学生たちの尚志への同感と賛意を表明し
ました。

夢みたものは ひとつの幸福
ねがったものは ひとつの愛
それらはすべてここに ある

三原を飛び立つ方々は、こういう気持ちを持ち、医療と福祉について高度な専門知識と
すぐれた実践的スキルをみにつけた人々なのです。間違いなく心のこもった課題解決と暖か
いチームワークで、人々の幸せな生活に大きく貢献していただけたと思います。